

第26回電波功績賞表彰式が開催されました

2015年6月16日、第5回定時総会に引き続き、電波産業会創立20周年記念式典及びその中で第26回電波功績賞表彰式が開催されました。まず、西銘総務副大臣からご祝辞を頂戴し、総務大臣表彰（電波産業会創立20周年特別賞）と総務大臣表彰の受賞者の方々に表彰状が授与されました。ついで、当会の山西会長から一般社団法人電波産業会会長表彰の受賞者の方々に表彰状が贈呈されました。

表彰状受領後、受賞者を代表して橋本 明様（株式会社NTTドコモ無線標準化推進室長）よりご挨拶がありました。

1 総務大臣表彰（電波産業会創立20周年特別賞）

(1) 「地上デジタルテレビ放送への完全移行と難視解消への貢献」

石井 晃 殿（一般社団法人デジタル放送推進協会 テレビ受信者支援センター 統括本部長）

放送分野において、地上テレビ放送のデジタル放送移行に関し、テレビ受信者支援センターの統括本部長として、全国的な普及支援、共聴施設のデジタル化改修支援、周波数の再編対策、難視・混信対策などを推進し、我が国の地上デジタルテレビ放送への完全移行と難視解消の実現に多年にわたり貢献した。

(2) 「地上無線通信システムの国際標準化に関する貢献」

橋本 明 殿（株式会社NTTドコモ 無線標準化推進室長）

地上無線通信分野において、国際電気通信連合無線通信部門（ITU-R）会合に1980年以降継続的に参加し、多くの重要勧告の策定に寄与するとともに、2007年からはITU-Rにおける最大規模のグループである第5研究委員会（SG-5）の議長として、携帯電話システムを含む、地上無線通信システムの国際標準化に多年にわたり貢献した。

2 総務大臣表彰

(1) 「1.5GHz帯BS-IF信号干渉キャンセラーの実用化」

ソフトバンクモバイル株式会社

代表 藤井 輝也 殿（ソフトバンクモバイル株式会社 研究本部 本部長）

移動通信分野において、1.5GHz帯携帯無線通信の基地局向けの電波に対し、BSデジタル放送の家庭受信に伴う中間周波数（BS-IF）信号に起因する干渉波を所定値以下に抑圧するBS-IF信号干渉キャンセラーを開発し、基地局へ実装することで家庭一軒一軒の対策を不要とするなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(2)「キャリアアグリゲーション技術を用いた超高速 LTE-Advanced システムの実用化」

KDDI 株式会社 LTE-Advanced キャリアアグリゲーション開発・実用化チーム
代表 岩男 恵 殿 (KDDI 株式会社 理事 技術統括本部 モバイル技術本部長)

移動通信分野において、携帯無線通信が複数の周波数帯を同時に使用するキャリアアグリゲーション技術により、最大スループットを従来の 2 倍(150Mbps)に高めた超高速 LTE-Advanced システムを国内で初めて実用化するとともに、国際標準化及び国内規定の整備に寄与し、電波の有効利用に大きく貢献した。

(3)「VoLTE の実用化」

株式会社 NTT ドコモ VoLTE 開発グループ
代表 照沼 和明 殿 (株式会社 NTT ドコモ 移動機開発部 部長)

移動通信分野において、LTE 通信方式の packets 交換を利用し、音声サービスの品質を保証しつつ周波数利用効率を 3G に比べ 3 倍に高めた VoLTE(Voice over LTE)について、国際標準化を主導するとともに開発・実用化を進め、サービスを国内で初めて提供するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

3 一般社団法人電波産業会会長表彰

(1)「陸域観測技術衛星 2 号(だいち 2 号)搭載用合成開口レーダ及びデータ伝送システムの開発」

宇宙航空研究開発機構

代表 鈴木 新一 殿 (宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門
ALOS-2 プロジェクトマネージャ
兼地球観測研究センター研究領域リーダー)

三菱電機株式会社

代表 針生 健一 殿 (三菱電機株式会社 鎌倉製作所 ミッション技術部 部長)

電波センサー分野において、陸域観測技術衛星 2 号(だいち 2 号)搭載用の合成開口レーダ及びデータ伝送システムを開発し、レーダについては分解能を従来の 10m から 1~3m まで向上させるとともに最大 490Km 幅の観測を、またデータ伝送については地球観測衛星として世界最高速度の 800Mbps を実現するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(2)「我が国の放送技術の研究開発と実用化に関する貢献」

黒田 徹 殿 (日本放送協会 放送技術研究所 所長)

放送分野において、FM 多重放送の実現にあたり、欧州方式の 10 倍のデータ伝送が可能なデジタル方式を研究開発し、また、地上デジタル放送については ISDB-T 方式を研究開発するとともに標準化、実用化を牽引するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(3) 「電池不要なエコリモコンの実用化」

TOTO 株式会社

代表 進 数馬 殿 (TOTO 株式会社 エレクトロニクス技術本部
電子機器開発部 部長)

無線通信分野において、低消費電力で高信頼性を特徴とする IEEE802.15.4 (2.4GHz) の通信技術と 1 つの小型発電機を組み合わせ、最大 9 個の選択ボタンを押す力を利用して自ら発電し、制御信号を送信する、電池不要の「エコリモコン」を実用化し、電波の有効利用に大きく貢献した。

(4) 「アクティブ RFID 技術を活用した物流パレット管理システムの開発」

日本電信電話株式会社 アクティブ RFID 開発プロジェクト

代表 清水 雅史 殿 (日本電信電話株式会社 未来ねっと研究所 リサーチ
プロフェッサー)

ユーピーアール株式会社

代表 酒田 義矢 殿 (ユーピーアール株式会社 代表取締役 社長)

NTT エレクトロニクス株式会社

代表 渡邊 琢美 殿 (NTT エレクトロニクス株式会社
セキュリティシステム事業ユニット 主事)

長野日本無線株式会社

代表 谷屋 明彦 殿 (長野日本無線株式会社 情報通信事業部 事業部長)

小電力無線分野において、920MHz 帯アクティブ RFID を物流パレットに装着して迅速な移動管理、基地局当たり最大 1 万台の RFID 収容、電池寿命約 10 年を同時に実現する高収容プロトコル技術を開発し、電波の有効利用に大きく貢献した。

(5) 「マルチバンド対応 ROF システムの開発・実用化」

株式会社 NTT ドコモ マルチバンド対応 ROF システム開発グループ

代表 前原 昭宏 殿 (株式会社 NTT ドコモ 無線アクセス開発部 部長)

無線アクセス分野において、LTE サービスの屋内エリア拡大のため、従来の 2GHz 帯に加え 1.5GHz 帯及び 1.7GHz 帯にも対応し、それぞれの無線信号を 1 つのシステムで同時に高品質かつ安定して伝送可能なマルチバンド対応 ROF (Radio Over Fiber) システムを開発・実用化し、電波の有効利用に大きく貢献した。

(6) 「小型航空機搭載用高分解能合成開口レーダーの研究開発」

日本電気株式会社 電波・誘導事業部

代表 藤村 卓史 殿 (日本電気株式会社 電波・誘導事業部
レーダシステム部 マネージャー)

電波センサー分野において、航空機搭載用高分解能合成開口レーダーの高分解能や多偏波機能を維持しつつ、セスナ等の小型航空機やヘリコプターにも搭載可能とするために機器を小型・軽量・低消費電力化するシステム最適化技術と動揺の補正技術を、更に、非専門家でも簡易に操作可能な操作性向上技術を研究開発し、電波の有効利用に大きく貢献した。



記念式典における
山西会長の式辞



記念式典における
西銘総務副大臣のご祝辞



表彰式における
羽鳥選考委員長の講評



受賞者を代表して
橋本 明様のご挨拶



電波功績賞表彰式終了後の記念撮影

後列左側から

鈴木様、 針生様、 黒田様、 進様、 清水様、 酒田様、 渡邊様、 谷屋様、 前原様、 藤村様

前列左側から

鈴木情通局長、石井様、橋本様、羽鳥委員長、桜井総務審議官、山西会長、藤井様、岩男様、照沼様、富永電波部長